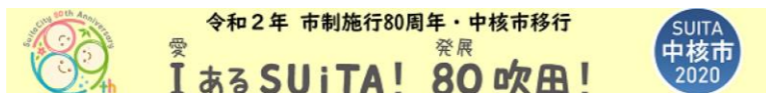


防災だより

吹田市
危機管理室
R2.4
第10号



連合単位の



自主防災組織の活動に補助金支給！

補助の対象

- ① 研修に伴う会場使用料、講師謝礼金など
- ② 情報発信・伝達に伴う広報誌やシステム管理費
- ③ 訓練に使用する消耗品費（飲食料は除く）
- ④ 災害時の活動を補佐する物品（飲食料は除く）の提供に伴う経費<安否確認カード、避難所運営で使用する備品など>

1組織あたり年 **10万**

※ 初回交付に限り、年15万円を上限として支給します。

人件費、交際費、慶弔費、飲食費及び親睦会費は対象外です。

自主防災組織間の情報交換会を実施

他組織の活動や、抱えている課題を情報共有・意見交換しました。
初めての開催でしたが、同志の集まりで話は尽きません。

活動内容の発表

- ① 地域住民の防災意識向上（山二地区）
※ 府HP（自主防災組織の活動事例）に掲載されました。
- ② 多世代が参加する訓練の取組（吹南地区）
- ③ 災害時要援護者支援対応（五月が丘地区）

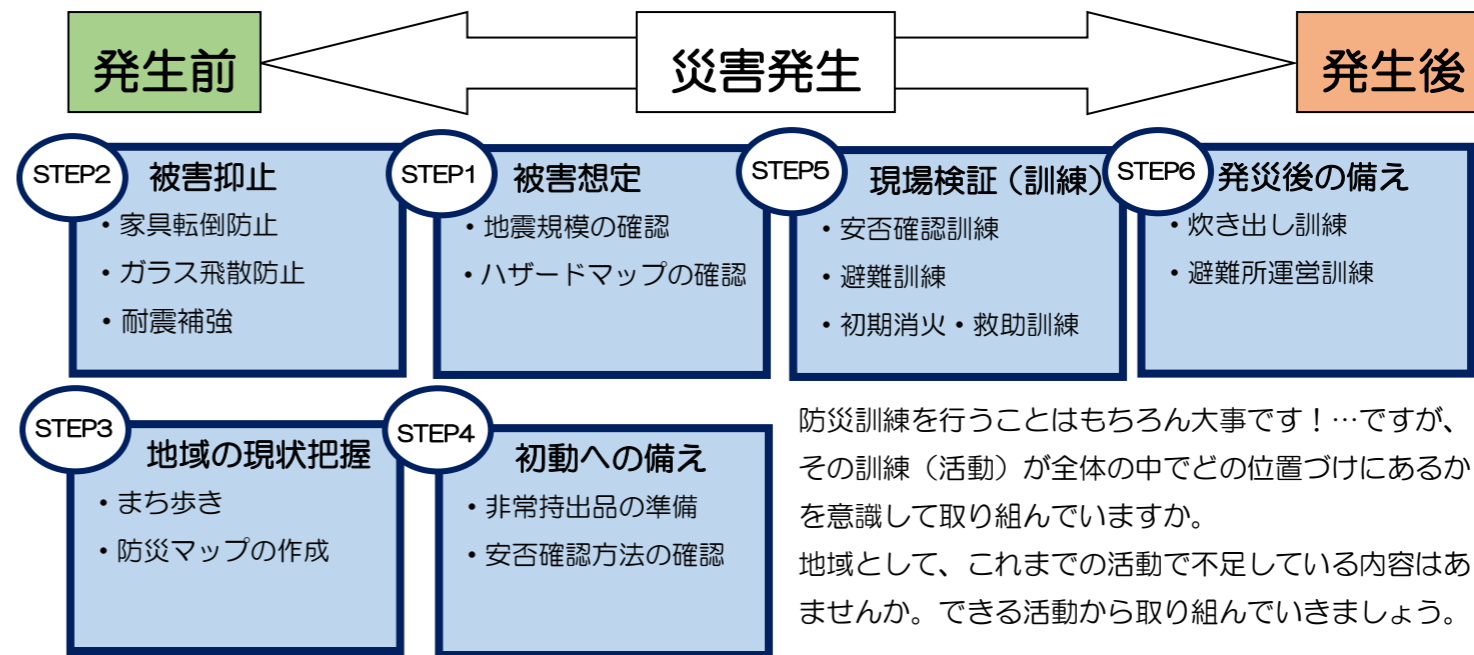


20年以上活動を続けている地区の取組や、結成して間もないながら多くの人を取り込む訓練の企画取組、また、実災害時の反省を踏まえ新たに開始した取組などを発表していただきました。地域特性や各々の課題に合わせた、さまざまな取組を共有することができました。

続けて、グループ別で情報交換を行いました。『自分たちの地区ではこんな訓練をしている。』『若い人材確保が課題、一本釣りの方法しかない。』など、抱えている課題を共有したり、その課題に対してどう取り組んだか、いま力を入れて取り組んでいることなど、想いを込めて意見を交換しました。アンケートでは、定期的に情報交換したいという声が8割で、テーマ別・ブロック別で絞って情報を交換したいという声もありました。

全体の繋がりを把握して

「なぜ、その活動をするか。」を考えよう



防災訓練を行うことはもちろん大事です！…ですが、その訓練（活動）が全体の中でどの位置づけにあるかを意識して取り組んでいますか。地域として、これまでの活動で不足している内容はありませんか。できる活動から取り組んでいきましょう。

STEP1「被害想定」、STEP3「地域の現状把握」
STEP4「初動への備え」

まち歩き&防災マップ作成（DIG）

大きな災害が発生する事態をイメージしながら、自分達のまちを歩いて、資源やリスクを確認する。そして、地域防災マップを作成するなど、必要なものを準備する。

STEP6「発災後の備え」

避難所運営ゲーム（HUG）

避難所運営時に起こる様々な事象をカードゲームで体験。避難所運営について、考える。

自分たちの避難所には何があるの？

避難所となる小中学校には救助用資機材（ボール、油圧ジャッキ等）があります。そして、備蓄品としての食料・飲料水・毛布は、小中学校に加え、公民館・市民ホールにも備蓄しています。備蓄品は、家が全半壊するなど着の身着のまま避難された方への提供を基本としています。発災後は、すぐに物資（食料や飲料水など）が届かないため避難所で生活するときは、まず、自分で備蓄した食料等を持参しましょう。

避難所は地域住民の協力がないと運営ができません。平常時に避難所運営訓練を通して、避難所での役割・担当を地域内で決めておくが重要です。また、その際には、資機材・備蓄品の保管場所、使い方などを実際に確認しておきましょう。

垂れ幕

多言語表記、夜でも見えるように工夫しています。



避難所を開設したときは、避難所の門扉や施設入口に、「開設中」を示す垂れ幕を掲示します。

発動発電機

家庭用のカセットボンベ2本で約1時間。長時間必要となる場合は、カセットボンベを持ち寄るなど協力をお願いします。

【使用にあたって】
①燃料の性質上、10℃未満ではエンジンが始動しない場合があります。使う時間、場所を変えて使用してください。
②年に1回、エンジンオイルを交換してください。

